

大阪錦繪新聞

第30号



世木みき斎

おきん

彫淺二良
板元石和

角四月十五日の午後正七時大城珍
 齋あり。鉄砲しき事あり且那と
 送之床り道狐と兼せこと噂る
 其車夫へ天満と。十日天神橋通
 元奥力町あり人力車屋と。柴鳴
 一行の明車。はは堤の客待小。
 日登り午の年酒。三十歳よ
 迎き美婦人。元西役所へ何程と。問へまて
 多しと車夫へ。定めて意男の所へ。一朱あぶ
 くらんと。女へ首振り。五錢で行きたまふと。安く賃と
 極め走る道。元奥力町へ来むるに。東より来る老男。車ははとこ行わう。
 人力車曳へ詫びせん。あつと見まて人の居と。行くとまふ其車が。
 一倍もく成りし。不思議なり。元西役所の角舎あり。
 餅屋とわうせ。ハハハ。容姿女見ぬ。扱へ狐と心付き。箱荷の事あり
 此後。仕合有るとまう屋町。北へ去ぬる車。群集の人と
 おいこひてクワイとの外り

よひ空ををあせつりの車夫と
 狐うらまらふとをあせつり



大阪錦繪新聞30号 文庫10-8065-2

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

